



げんきな子 がんばる子 やさしい子

# 園だより

9月号

北区立さくらだこども園  
園長 西澤 尚子

## 成長の気付き

この夏は、皆様どのように過ごしたでしょうか。今年は「3年ぶりの…」と付く話題が多かったように思います。コロナ感染症の収束はまだですが、この夏は行動制限が無く、それぞれの判断で行動することが求められました。そこで、3年ぶりに、なかなか会えなかった親戚に会いに帰省したり、家族での旅行を楽しんだりした人が増え、地域によっては伝統行事を復活させたところもありました。

そんなニュースを聞いている中に、「3年ぶりに会えた孫がもうこんなに大きくなっていて…」と孫の成長に目を見張り、喜ぶ祖父母の方の姿がありました。子どもの時期の3年ですから、大きな大きな変化、成長が見られたことと思います。

こども園は7、8月も毎日子どもが登園してきます。そのため、8月も避難訓練を行っています。実際の災害はいつ起きるか分からないので、年間を通していろいろな時間帯、想定で避難訓練をしています。毎年8月は午睡明けの、まだ子どもたちが起きさらない時間に行っています。午睡の部屋では、いつものように数人の担当保育者が幼児を見守り、起こし始めるタイミングで避難訓練を始めました。5歳児はもうすっかり目が覚めて動き出せる幼児が多かったのですが、4歳児、3歳児はまだ夢の中、というような状態の幼児もいました。それでも、非常ベルと災害の発生・避難場所を知らせる園内放送を聞くと、ホールや年長保育室等の寝ていた場所から3分経たずに全員が正門前に集まっていました。3歳児も、泣いた人もいましたが、保育者に促され集合場所に集まるとしっかりと視線を向けて避難後の話を聞いていました。この、園児たちの姿は、保育者にとって驚きであり、大きな喜びでした。3歳児が、まだ目覚めきらないときに急に非常ベルが鳴り、驚いて何があったかと思う中で保育者に「上履きを履いてみんなを外に出ます」と言われ、そういうときなのだ感じてしっかり行動に移せた、ということに、大きな成長を感じたからです。さくらだこども園の中では最年少で、可愛い3歳児さん、と幼く見がちですが、必要なときに必要な行動をとれる人でもある、との成長した姿に気付くことができました。これで何かあっても子どもたちを守れる、と園児たちの成長に安心したのと同時に、つい幼く思っただけこれ言い過ぎて関わってしまうことへの反省もしました。

幼児期は、まだ大人が守るべき時期ですが、幼児なりにちゃんと学んで、必要なときに必要な行動をとろうとする心が育っています。ご家庭の中では、この夏の間、お子さんの成長に気付く機会があったのでしょうか。小さな成長の積み重ねが、ふとしたときに大きな成長と感じられるのだと思います。一方で、子どもにとっては小さな成長でも見付けてもらうとうれしいものだと思います。子どもたちが成長の喜びを感じられるように、子どもの小さな変化を見付ける目を、大人は学んでいきたいですね。

人生100年時代！子どもも大人も学び続け、成長していく人でいたいものです。

### —今月の指導のめあて—

- 〈3歳児〉
  - ・片付けたり食事の約束を守ったりすると気持ちよいと感じ、できることは自分ですとする。
  - ・保育者や友達と過ごす中で、自分の気持ちを動きや言葉で表そうとする。
  - ・身近な虫や秋の草花・木の実などを見たり、触れたりして楽しむ。
- 〈4歳児〉
  - ・保育者や友達と関わる中で、自分なりの思いを言葉や動きで表したり、体を伸び伸びと動かして遊んだりする楽しさを感じる。
  - ・園庭の栽培物や虫など身近な秋の自然に興味をもち、見たり触れたりすることを楽しむ。
- 〈5歳児〉
  - ・共通の目的に向かって友達と一緒に取り組む中で、自分の力を発揮しようとする。
  - ・友達と力を合わせて取り組んだり、競い合ったりし、いろいろな運動遊びを楽しむ。
  - ・秋の自然に興味や関心をもち、よく見て調べたり、遊びに取り入れたりすることを楽しむ。

